

国立病院機構熊本医療センター

No.183



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

第33回 開放型病院連絡会開催が迫りました

平成24年度第1回（通算33回）の国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が、来る9月4日（火曜）午後7時より、くまもと県民交流館パレア（鶴屋東館10階パレアホール）で開催されることになりました。連絡会総会では、症例の呈示、地域医療連携室からのお知らせに続きまして、7階鶴屋ホールにおきま

して意見交換会を予定しております。多数の先生方、看護部門、事務部門、MSWの方などスタッフの皆様がご参加いただきますようお願い申し上げます。当日、会場にて新規登録医の受付もできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付け下さい。

（副院長 野村 一俊）

第33回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日時：平成24年9月4日（火）午後7時00分～

会場：くまもと県民交流館パレア（鶴屋東館10階パレアホール）

内容：開放型病院連絡会総会

1. 症例の呈示

(1) “グリーンライトレーザーを使った前立腺肥大症の治療について”

国立病院機構熊本医療センター泌尿器科部長 菊川 浩明

(2) “乳輪下腫瘍の根治術について”

国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男

2. 地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室長、統括診療部長 片瀬 茂

意見交換会 鶴屋東館7階 鶴屋ホール

【連絡先】

国立病院機構熊本医療センター管理課

電話 096-353-6501 内線5690（中村・富田）

住所 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5



基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

VOICE

登録医の声



佐藤医院

院長 佐藤 紀良

私は昭和61年11月1日に上熊本で開業いたしました。当時の私の医院には入院病棟がありましたので、夜間に外来受診される患者さんもいました。軽症なら良いのですが重症患者さんは大病院に紹介しなければなりません。当時の状況は今日ほどに大病院の救急外来は充実してはいませんでしたが、幸いにも上熊本地区には済生会病院が近くにありましたので、夜間の救急患者もころよくお引き受けいただき随

分と助けていただいていた。しかし、年数は定かではありませんが今から十数年以上前に済生会病院が段山から現在の場所に移転することになってしまいました。当時上熊本の住民は一樣に済生会病院の移転に不安を感じていました。それは当時の熊本国立病院が救急患者の受付をやっていないことからのものでした。そのころ大学時代の同級生である宮崎久義先生が国立病院の院長になられて救急外来を充実されるとのお話をお聞きしました。宮崎先生は麻酔科ご専門の先生でしたからその発想はすばらしいものに思えました。そのうちに高橋毅先生が救急外来医として赴任なされてこられました。当院にご挨拶に見えられた高橋先生は体質医学研究所成人科ご出身だとのことでしたので私には意外な人選にも思えました。しかし、その人選は賢明なものでした。高橋先生はいついかなる時でも救急患者をお引き受けられ、時には救急車にもご乗車なされるとのことでした。そういうことから地域住民の国立病院機構への信頼感は次第に高まり、今では私たち開業医も含めて緊急事態が起きても安心していられるようになっています。宮崎院長から池井聰院長、河野文夫院長へと院長は変わりましたがその姿勢は今も変わっていません。近年の国立病院の地域住民や私ども医師への地域貢献には大なるものがあると断言できます。これからもどうぞよろしくお願いします。

「新町地蔵祭りに参加しました。」

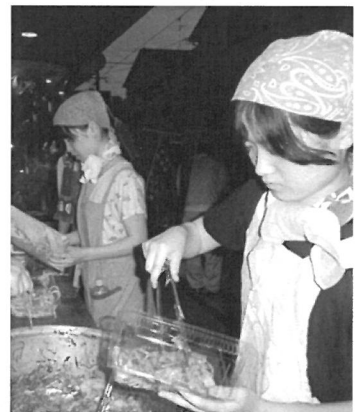
7月24日新町地蔵祭りが開催されました。

今年度、学生ボランティア2年生11名が段山の地蔵祭りに参加させていただきました。地蔵祭りへの参加は今年で4回目になります。学生は「ラーメン」・「焼きそば」・「生ビール」の各ブースに分かれて、販売を行いました。「ラーメン」・「焼きそば」はとても好評で、「ラーメン」はすぐに売り切れてしまいました。「焼きそば」コーナーも長蛇の列で、長い待ち時間での接客となりましたが、学生はとびきりの笑顔でとて



河野院長と参加した学生達

も気持ち良く元気に対応していました。また、次々に運ばれて来る出来たての焼きそばを容器に詰める作業も担当の方と声を掛け合いながら連携が図れており、日頃の学校生活では見えなかった学生の姿を見て、とても頼もしく感じました。



焼きそばを販売する学生

新町地蔵祭りを通して、学生は地域の活動を知るとともに、地域の方とのコミュニケーション、接遇・接客、調整などの社会性を学ぶ機会になっています。学生がこの経験を今後の学校生活に役立てることを期待するとともに、このような参加の機会をいただき、大変感謝申し上げます。(看護学校教員 馬場 亜希子)

施設紹介

看護部長室



左より石橋副看護部長、石橋看護部長、猿渡副看護部長、事務助手安波



熊本医療センターの玄関を入り、3階へ降りて頂き、2つの副院長室に挟まれた場所に看護部長室はあります。ドアを開けると京の町屋風に部屋は奥へと広がります。手前には笑顔が素敵で有能な事務助手安波さん。出勤簿・休暇簿等の整理を行っています。隣は今年の4月に異動してきた新参者の石橋富貴子副看護部長です。教育・研修に関する業務を担当しています。廊下に向かって、陣取るのは生粋の熊本県人の猿渡恵美子副看護部長です。看護業務・労務管理に関する業務を担当しています。そして、奥の間には当院で5年目を迎える微笑みの鉄人石橋薫看護部長が静かに鎮座。看護部の総司令官として、冷静に全体を見渡し、時に鋭い指導とさりげない優しさをみせられます。定住しているのはこの4名ですが、一日中、入れ替わり立ち代わり、沢山の方の訪問があり、賑やかなところです。

看護部長室は常に「患者様と職員の幸せのために！！」を合言葉に、皆様の話に耳を傾け、できる限りの支援をしたいと日夜、頑張っております。皆様のこころのサプリメント多数揃えておりますので、お疲れの際は、お立ち寄りください。お待ちしております。

(副看護部長 石橋富貴子)



看護部の研修会の様子



九州内5会場で行われた、就職説明会の様子

2012 診療科紹介 (52)

心臓血管外科



部長
岡本 実

心臓血管外科一般
大動脈外科（胸部、腹部、
血管内ステントグラフト治療）
血管外科（末梢動脈）
心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医
日本胸部外科学会認定医

診療内容と特色

当科では、主に虚血性心疾患、弁膜症、胸部大動脈瘤、急性大動脈瘤などの心臓大血管手術、および腹部大動脈瘤や閉塞性動脈硬化症による下肢バイパスなどの末梢血管手術を行っています。また、胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤の治療は、開胸手術や開腹手術のリスクが高い方などに対し、低侵襲治療である血管内治療（ステントグラフト内挿術）を積極的に取り入れています。

さらに、心臓血管センターとして、専門病棟内にCCUを完備しモバイルCCUでの受け入れや、救急搬送に対し、循環器内科と共同で診察を行い、24時間体制を行っています。

平成24年7月28日
世界・日本肝炎デーに

「二の丸かんかんカフェ」を開店しました

世界保健機関（WHO）は、平成23年に世界的レベルでのウイルス性肝炎のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消や感染予防の推進を図ることを目的として、7月28日を「世界肝炎デー」と定め、肝炎に関する啓発活動等の実施を提唱しました。我が国でも今年から「日本肝炎デー」とし、第1回を迎えました。

当院では月に1回入院および外来患者様を対象に「肝臓病教室」を、また毎年12月に一般住民を対象に「公開肝臓病教室」を開催し、肝臓病の啓発活動を行っています。さらに肝炎に関する普及啓発活動ができないかと思いついたのが「二の丸かんかんカフェ」です。肝臓病の患者様や肝臓に関心のある方への交流と情報交換の場の提供というコンセプトで、だれでも気軽に参加できるようにとの思いでつけました。



二の丸かんかんカフェスタッフ



医師
田中 睦郎
心臓血管外科全般
日本外科学会専門医

診療実績

2011年4月1日から2012年3月31日までの手術症例は開心術32例、胸部大動脈瘤ステントグラフト挿入術6例、腹部大動脈瘤手術35例（ステントグラフト16例、開腹手術19例）下肢バイパス術16例、末梢血管手術12例、内シャント手術8例、静脈瘤手術9例、その他4例です。

胸部大動脈瘤や腹部大動脈症例ではステントグラフト手術を優先しています。

医療設備

CCU 4床、ICU 6床、心臓カテーテル室2室、心臓超音波装置3台、IABP 4台、PCPS 2台、モバイルCCU 2台

ご案内

CCUでは心臓血管外科または循環器内科医師が24時間対応することが可能となっており、心臓血管疾患への救急対応がこれまで以上に無理なく行えるようになってきました。そのため、心臓血管疾患の医療、特に救急医療を今後継続的に底上げしてまいりたいと思えます。



意見交換の様子

参加者は33名で、スタッフが18名、司会進行は椿裕子栄養管理室長が担当し、私が肝臓病トピックスを話しました。その後1グループ6～8人に分かれ、C型あるいはB型慢性肝炎の治療体験、副作用に関する質問、肝がんの治療に関する疑問などお互いに話し合い、予定の2時間はあっという間に過ぎました。会場の雰囲気は終始和気あいあいとし、それぞれが忌憚ない意見を出し合っていました。これは肝臓病教室では得られない光景で、主体が参加者であることを強く感じさせられました。

アンケートの結果、またこのような機会を作りたいとの意見が多数寄せられました。現在治療中あるいは治療を考えている患者様にとっては貴重な情報交換の機会、病気に関する正しい理解につながると考えられます。来年もぜひ開店したいと思います。

（消化器内科部長 杉 和洋）

診療情報提供書兼FAX紹介状を改訂しました

先日、お手紙で御案内しておりました、診療情報提供書兼FAX紹介状・画像検査予約FAX送信票の送付用紙の訂正については、大変ご迷惑をお掛け致します。

これに伴い、大幅に様式を変更し新たな診療情報提供書兼FAX紹介状を作成させて頂きました。

1・2枚目を当院へFAX送信し、患者様にご持参頂き、3枚目をお手元に控えて頂きます様お願い致します。

今後とも診療情報提供書兼FAX送信票をご活用頂き、ご紹介の程宜しくお願い致します。

(経営企画室長 織田 政継)

国立病院機構熊本医療センター 診察予約申込書

FAX送信・印刷用紙 (1枚目)

お申し込み年月日 平成 年 月 日

国立病院機構熊本医療センター 科宛 (医師)	病院名 御氏名 御住所 電話番号 FAX番号
--------------------------------	------------------------------------

(フリガナ) 患者様氏名 様 男・女 生年月日 明治 昭和 平成 年 月 日 (乳幼児 か月 日) 保険者番号 被保険者証の 番号 被保険者 との 続柄 本人・家族 ご受診予定日 平成 年 月 日 (曜日) 時 分 ・ 外来 緊急依頼(本日) 来院方法 救急車・病院車・その他 () FAX送信者名 患 病 名 ご紹介目的	患者様印住所 お電話番号 () - 公費負担者 番号 公費負担 定額者番号 公費負担 割合 FAX送信者記入欄
--	--

FAX 診療申込書

FAX 送信先：地域医療連携室 096-323-7601

◀ 受付時間 ◆ 平日 8:15 ~ 17:15 ▶

FAXは手続き上、来院日の前日FAX受付時間内に送信して下さい。
FAXにて予約時間をご連絡 いたします。

お知らせ

- 診療の都合によっては、お待たせすることがございますので、あらかじめご了承下さい。
- ご指定いただいた医師が休診の場合、別の医師が診察する場合がございます。
- ご不明な点は地域医療連携室までお問い合わせ下さい。

地域医療連携室 TEL 096-353-6501 (2360)

お問い合わせ ▶ 国立病院機構熊本医療センター 地域医療連携室
 ・連絡先 熊本市中央区二の丸 1-5 TEL 096-353-6501 (2360)

ファクシミリ申込書 1枚目

FAX紹介予約の流れ

【紹介申込】

地域医療連携室へファクシミリ申込書1枚目・国立病院機構熊本医療センター提出用2枚目(又は貴院のご使用で作成された診療情報提供書)をFAX。



【連絡・調整】

ご希望日時で、ご予約をお取り出来ない場合は、診療予約申込書のFAX送信者の方へ連絡し、受診日時を調整させて頂きます。

予約が取れましたら、FAX受取・時間予約報告をFAXさせて頂きます。



【紹介】

患者様に診療情報提供書(1枚目・2枚目)を預けて頂き、受診の指示をお願い致します。

◀FAX診療情報書兼FAX紹介状について▶

1. 診察日に関しましては、当院の外来担当医名簿(毎月くまびょうニュースに同封しています。)をご参照ください。
2. 受付日(平日月～金曜日)の17時15分までにFAXを送信頂ければ、速やかにFAXで「FAX受取・時間予約報告」をFAXで返信致します。
 17時15分以降の送信の場合は「FAX受取・時間予約報告」を翌日(翌日が土・日・祝祭日を除く)に返信致します。翌診療日に受診されるご紹介状を時間外に頂いた場合、診療予約はできませんのでご了承下さい。
3. 本様式がなくなりましたら、地域医療連携室までお申し出下さい。直ちに郵送にてお送り致します。
 なお、ホームページからもダウンロードできます。

最近のトピックス

侵襲の少ない検査からの確定診断への道 液体化検体細胞診(Liquid-Based Cytology)



病理診断科

村山 寿彦

細胞診といえば1927年にハンガリーのDr. Babes, A. A.により最初に提唱され、その後 Dr. Papanicolaou, G. N.らにより確立された歴史ある診断法です。今日細胞診は予防医学(スクリーニング)や日常診療での診断に汎用されており、何をいさらと思われるかもしれません。ところが近年、液状化検体細胞診(LBC)という新しい細胞診標本作成法が開発され、これまでの細胞診の常識を変えつつあります。

従来法では細胞を採取後、スライドガラスに塗抹し、固定、染色して観察していました。ところがこの従来法には様々な問題点、1) 液状検体(尿、髄液、体腔液など)では細胞のスライドガラスへの固着が困難で、細胞保持率は20-30%にすぎない 2) 塗抹後直ちに固定しないと固定不良となり細胞形態が不明瞭化する 3) 塗抹範囲が広くムラもできやすいため、観察に時間がかかる 4) 出血や炎症、細胞同士の重なり等により、細胞の観察が妨げられる、5) 免疫組織化学(IHC)、分子生物学的検索が困難、等がありました。

そこでLBCでは以下の方法をとることで、上記従来法の問題点を解決しました。

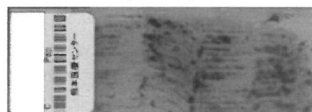
LBCではまず細胞を採取後、直ちに細胞浮遊液に入れます。この細胞浮遊液には固定剤や赤血球溶解剤などが含まれているため細胞は確実に固定され、さらに混在赤

血球は溶解され、細胞観察の妨げとなりません。固定後検体は濃縮、攪拌され、細胞浮遊液の一部を陽性荷電されたスライドガラスの直径約2cmの円形の範囲に静置し、細胞などを電氣的に付着させます。従って、細胞保持率は高くなり、分布は均等で、細胞同士の重なりなども少なくなります。また観察範囲も上記円形の範囲に限定されますので、観察時間も短縮できます。さらに残りの細胞は細胞浮遊液中に保存可能で、必要に応じて標本を追加し、IHC、分子生物学的検索を行うことができます。

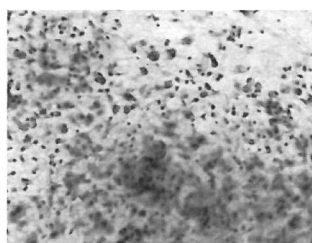
当院病理診断科ではLBCを熊本県内でいち早く平成24年1月に正式導入しました。これまでLBCとIHCを併用して、従来法では不可能だった胸水の標本からのびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の確定診断や、転移性癌の原発巣の推定に成功しています。

細胞診は組織診断に比べて一般的に侵襲の少ない診断法です。今後、LBC法とIHC、あるいは分子生物学的検索、とくにFISH法を併用することにより、診断精度の向上、とくに治療法の選択に直結する病理診断をめざしていきたいと思えます。

従来

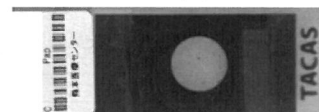


塗抹される範囲が広く、ムラが目立つ

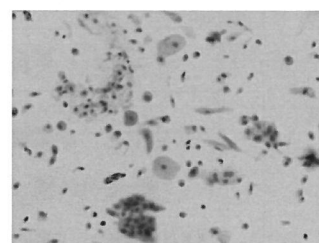


細胞同士のかさなりにより観察が困難

LBC法



標本は径13mmの円形の範囲に限定



細胞は均等に分布、重なりも少ない

米国エール大学ウィリアム・ヴァンス教授の研修を終えて

この度、8月12日、13日の二日間にわたり米国エール大学よりウィリアム・ヴァンス教授をお迎えし、メディカルプレゼンテーションおよびコミュニケーションに関する英語研修が行われました。ヴァンス先生は英語を専門とする語学学者であり、世界中の企業や政治機関において英語指導を行っているほか、英語教育に関する数多くの著書を出版されています。

今回は、主に研修医を対象とした講義及び、ワークショップを行っていただきました。講義においては、“5 steps to globalize your communication”と題し、より良い英語によるコミュニケーションに必要な要素として、“Package・Highlight・Mark・Picture・Show”を挙げられ、文章の区切り方やまとめ方、ジェスチャー等のテクニックについて実際に発音練習等を織り交ぜながらわかりやすくレクチャーしていただきました。

ワークショップでは、研修医の英語でのプレゼン発表後に、各人それぞれ3つのアドバイスをいただき、翌日、頂いたアドバイスを踏まえ再度発表し、改善点を評価していただきました。頂いたアドバイスはいずれも的確で、それらを実行するだけで決して流暢でない英語でも、信



ヴァンス教授と共に記念撮影

頼感や自信を感じられる発表に変化していることにとっても驚きました。

ヴァンス先生は来年度も当院にお越し頂き、レジデントを中心に指導を行っていただく予定です。一人でも多くの方にこのセミナーに参加していただき、いくつかのポイントを押さえるだけで、コミュニケーションの質を格段に向上できることを実感して頂きたいと思えます。

(2年次研修医 齋藤 雄一)

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ68回

「2011年度に経験したギラン・バレー症候群5例の検討」

神経内科 小阪 崇幸

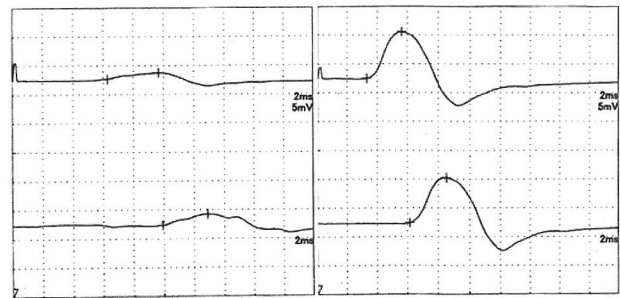


ギラン・バレー症候群（以下GBS）は、急性進行性の四肢筋力低下および深部腱反射消失を主徴とする代表的な末梢神経疾患です。ポリオが激減した現在では、急性に四肢筋力低下をきたす神経・筋疾患の中で最も頻度が高く、年間発症率は人口10万人あたり1人前後といわれています。2011年度に当院神経内科において入院加療を要したGBSは5例でした。急性期病院という当院の特色を考えると、今後もかなり高い確率でGBS患者を診察、治療する機会に遭遇すると考えられます。そこで、今後の診療の一助とすることを目的に、1年間に経験したGBS患者5例について後方視的に検討いたしました。平均発症年齢は50.4歳（28歳-69歳）。男性2例、女性3例。4例にて感冒症状や下痢といった先行感染を認めました。初発症状は、筋力低下および脱力が3例、しびれが2例で、初発部位としては、上肢が2例、下肢が3例でした。初発症状の出現からピークまでは平均13日。経過中のその他の随伴症状として、失調を1例、疼痛を2例、脳神経症状を3例、そして球麻痺症状を2例にそれぞれ認めました。1例においては呼吸筋麻痺まで進行し、一時的に気管内挿管および人工呼吸器管理を要しました。全例において深部腱反射の消失および神経伝導速度検査異常を認めた（図1）一方、急性期に髄液中の蛋白細胞解離を認めたのは1例だけでした。治療としては、全例に免疫グロブリン大量静注療法を行いました。症例によっては、ステロイドミニパルス療法や血液浄化療法の追加を必要としました。

さて、GBSは自己免疫性疾患で、自己抗体が誤って自己の末梢神経を攻撃してしまうことが原因です。近年その抗体の大部分が、ガングリオシドという細胞膜表面に存在する糖脂質の糖鎖、を認識する抗体であることが明らかになってきました。今回の検討でも、5例中4例において抗ガングリオシド抗体の上昇が確認されました。興味深いのは、抗体の種類により攻撃する末梢神経の種類が決まっており、臨床像と強い相関を認める点です（表1）。

以上のように、GBSは人工呼吸器管理を必要とするような呼吸障害をきたしうる神経救急疾患であることが改めて確認されました。進行性の筋力低下を呈する患者においては、GBSの可能性も疑い、適切かつ迅速な検査、治療が必要であると考えられました。

図1 神経伝導速度検査



左：Case1、右：コントロール、著明な振幅の低下を認め、軸索の高度な障害が示唆される。

表1 GBSと抗ガングリオシド抗体

抗体	臨床像	主な抗原分布
抗GM1抗体	純粋運動型	Ranvier絞輪
抗GM1b抗体	純粋運動型	
抗GD1a抗体	急性運動軸索型	有髄神経軸索(前根>後根)、Ranvier絞輪、後根Remark bundle
抗GalNAc-GD1a抗体	純粋運動型	脊髄前根、筋内神経、後根小径線維
抗GD1b抗体	急性脱髄型、感覚障害	有髄神経傍絞輪部、DRG大型神経細胞
抗GQ1b抗体	外眼筋麻痺	Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ脳神経傍絞輪部、一部のDRG神経細胞
抗GT1a抗体	咽頭・頸部・上腕型	
抗LM1抗体	急性脱髄型	髄鞘
抗GM2抗体	脳神経障害、感覚障害	

発現する抗ガングリオシド抗体の種類と臨床症状とは一定の傾向が認められる。

JICA副理事長が当院を訪問されました

2012年7月20日、独立行政法人国際協力機構（JICA）の堂道秀明副理事長が、当院の河野文夫院長を表敬訪問されました。副理事長の他JICA本部からは高橋政俊国内事業部次長（計画担当）と長縄真吾副理事長秘書、JICA九州から村岡敬一所長、伊藤友美研修業務課担当、田中宏幸総務課企画役がご同行されました。当院からは院長の他、杉和洋肝炎研修コースリーダーと武本重毅AIDS研修コースリーダーが出席しました。

副理事長が
ご挨拶される様子



堂道副理事長は、1972年に外務省に入省され、在米国大使館参事官、在エジプト大使館公使、在インドネシア大使館公使などを歴任された後に、外務省中東アフリカ局長（2003-2004）、駐イラン特命全権大使（2004-2007）、駐インド特命大使（2007-2010）を経て、2011年2月に帰国し特命全権大使（経済外交担当）を務め、2012年4月に現職に就任されました。

河野院長から、これまでの当院の国際協力活動の歴史についての説明が行われ、それぞれのコースリーダーからは、最近の研修状況と問題点などについて報告が行われました。

堂道副理事長から、当院の国際協力活動について、「とても素晴らしいし、高く評価している」とのご挨拶がありました。（庶務班長 富田 啓治郎）

研修医レポート

臨床研修医

1年次 ^{おか}岡

^{やす のぶ}保伸



はじめまして、国立病院機構熊本医療センター研修一年目の岡といいます。4ヶ月が過ぎてようやく研修医生活に慣れ始めた今日この頃です。右も左もわからないままに現場に出たわけですが、国立病院で研修医として働きながら感じたことを報告させていただきます。

最初の2ヶ月は呼吸器内科で研修させていただきました。最初の研修ということもあり病院のシステムになれることから始まりましたが、初めから指導医の先生と共に患者さんを受け持ち、肺癌などの悪性疾患から肺炎などのcommon diseaseまで様々な疾患に対し

での治療・管理、また患者さん・医療スタッフとの接し方を学びました。もちろん手技があればいろいろと経験させてもらえます。何もかもが初めてでわからないことだらけでしたが、丁寧に教えていただき非常に実りある2ヶ月を過ごしました。

現在は麻酔科にて研修しています。麻酔科での研修はルート確保、挿管といった手技的な研修を行う傍らで、術前・術中の患者管理、薬理作用の勉強など幅広く勉強させてもらっています。

また日常の勤務を行いながら月に三回程度救急外来で、日勤・夜勤に入ります。個人的にはこの救急外来での勤務が大変いい経験になっています。ウォークインの軽症の患者さんから、救急車で重症な患者さんまで一日で様々な症例を経験します。勤務では上級医の先生および2年目の研修医の先生と一緒に動きます。いろいろとアドバイスを受けながらも自分自身で考え患者さんの治療にあたります。

このように色々と忙しい毎日ですが、充実した研修医生活を送らせていただいています。これからも多くのことを吸収しながら、大きく成長していければと思っています。

臨床研修医

1年次 ^{かた おか}片岡

^{あや}文



こんにちは。研修医1年目の片岡文と申します。

研修が始まってから、あっという間に4ヶ月が経ちました。この4ヶ月はまず病棟業務に慣れることから始まり、患者さんとの接し方、プレゼンテーションやコンサルトでの的確に伝える方法、看護師さんへの連絡や報告などの大切さなど、医師として働く上での最も基本的なことを学びました。

最初に回った外科では、糸結びや縫合など基本手技はもちろんのこと、最後の方では、未熟ながらも執刀医として手術を最初から最後までさせていただき、何度も見ていた手術でも実際にしてみると思うようにいかない部分などに気づくことができ、とても貴重な経験をさせていただきました。また、上級医の患者さんに対する上手な説明を聞くことで、今後まねるべき多くの表現の仕方を学べ、とても充実した2ヶ月を送ることができました。

現在回っている腎臓内科では、患者さんの問題点一つ一つを丁寧に検討し解決するための病態の捉え方や治療方針の考え方を学んでいます。内科ですが、手技も多く、シャント穿刺や透析カテーテル挿入だけでなく、シャント作成術やPTAなどを実際にさせていただき、血管吻合の繊細さや閉塞シャントをバルーンで膨らませた時の感動を身をもって感じています。

また、救急での日勤・夜勤では見逃してはいけない疾患、頻度が高い疾患を鑑別していく上でkeyとなる問診項目、診察項目、特に危険な疾患を示唆する所見を学んでいます。問診をしっかりととり、診察し、それを相談することで、一緒に当直を行っている上級医の指導の元、たくさんの症例を経験しています。また、教えてもらうだけでなく、実際に経験した主訴を後で自分で本で見直すことで、不足していた点に気づくことができ勉強になっています。

研修医同士も仲が良く、時に刺激し合い、時に助け合い、共に切磋琢磨しながら研修医生活を送っています。これからも研修医の時にしか経験できないことを精一杯行い、幅広い知識や診療技術を身につけていきたいと思っていますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

研修のご案内

第24回 症状・疾患別シリーズ (会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成24年9月8日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:新町いえむらクリニック院長/熊本市医師会理事 家村 昭日朗 先生

演題:「リンパ節腫脹に対するアプローチ」

1. リンパ節腫脹を来す疾患の鑑別点 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高 道弘
 2. リンパ節腫脹に対する検査の進め方 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 井上 佳子
 3. 悪性リンパ腫に対する治療 国立病院機構名古屋医療センター血液・腫瘍研究部長 永井 宏和 先生
- この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

第164回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年9月10日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「C型急性肝炎の一例」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 小林 起秋
4. ミニレクチャー「急性心不全の初期対応について」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科 石井 正将

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第132回 三木会 (無料)

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成24年9月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「血中TG高値(3500mg/dl)、糖尿病足病変、ASOを伴った2型糖尿病の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
信岡謙太郎、中西信博、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
2. 「腎血管性高血圧の合併が疑われレノグラムなど高血圧の精査を行った2型糖尿病の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
中西信博、信岡謙太郎、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

第121回 救急症例検討会 (無料)

日時▶平成24年9月26日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「航空医療」 国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第27回 シンポジウム (無料)

[日本医師会生涯教育講座2単位認定]

日時▶平成24年9月28日(金)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- 座長:熊本県精神科病院協会 理事 宮本 憲司朗 先生
1. 基調講演 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学教授 池田 学 先生
 2. 急性期病院の立場から 国立病院機構熊本医療センター精神科部長 渡邊 健次郎
 3. 精神科病院の立場から 益城病院 理事長 犬飼 邦明 先生
 4. 行政の立場から 熊本県精神保健福祉センター長 児玉 修 先生
九州厚生局健康福祉部医事課長 入江 芙美 先生

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2012年 研修日程表 9月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

9月	研修センターホール	研修室	その他
1日(土)	14:00~16:00 第239回 減菌消毒法講座 「汚染食材洗浄の基本と最近の知見〜洗浄方法別留意点、中性酵素洗剤剤、すすぎ、など〜」		
3日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
4日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
5日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
6日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「胸部X線の読み方」 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科部長 柏原 光介		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
7日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
8日(土)	15:00~17:30 第24回 症状・疾患別シリーズ 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 新町いえむらクリニック院長/熊本市医師会理事 家村昭日期 「リンパ節腫脹に対するアプローチ」 1. リンパ節腫脹を来す疾患の鑑別点 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高 道弘 2. リンパ節腫脹に対する検査の進め方 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 井上 佳子 3. 悪性リンパ腫に対する治療 国立病院機構名古屋医療センター血液・腫瘍研究部長 永井 宏和		
10日(月)	19:00~20:30 第164回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
11日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:30 外科術前症例検討会 C1 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
12日(水)	18:00~19:30 第76回 クリティカルパス研究会(公開)		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
13日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「抗菌薬の使い方」 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高 道弘	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
14日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
18日(火)	19:30~20:30 第23回 熊本棋食・熊下リハビリテーションセミナー 「気管切開とカン્યューレについて」 済生会熊本病院棋食・熊下障害看護・認定看護師 山川 美樹		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
19日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
20日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「甲状腺疾患の診療」 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 東 輝一郎	19:00~20:45 第132回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2>・0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
21日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
22日(土)	13:00~15:30 第126回 看護卒後研修 「認知症患者の看護-せん妄のある患者の看護-」 国立病院機構菊池病院認知症看護課長 石山ひろみ		
24日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
26日(水)	18:30~20:00 第121回 救急症例検討会 「航空医療」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
27日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 〈細胞診月例会・症例検討会〉	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
28日(金)	19:00~21:00 第27回 シンポジウム 【日本医師会生涯教育講座2単位認定】 座長 熊本県精神科病院協会 理事 宮本憲司朗 「医療の将来-精神疾患と地域連携-」 1. 基調講演 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学教授 池田 学 2. 急性期病棟の立場から 国立病院機構熊本医療センター精神科部長 渡邊健次郎 3. 精神科病棟の立場から 益城病院 理事長 犬飼 邦明 4. 行政の立場から 熊本県精神保健福祉センター長 児玉 修 九州厚生局健康福祉部理事 入江 英美		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)